

日本大觀

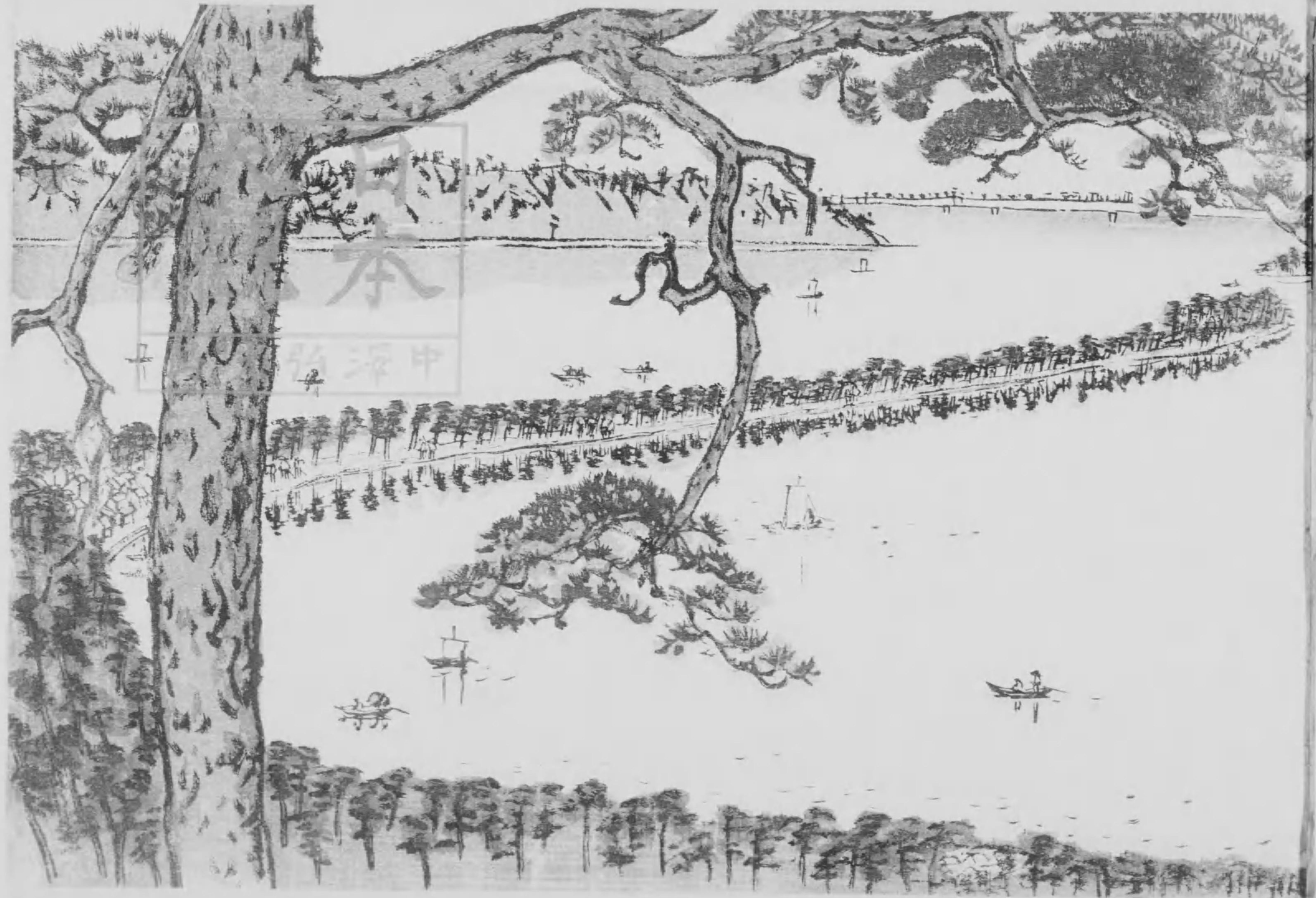
416  
42

6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影





日本大觀の此巻をみると  
 題を畿内にもうがその  
 大半を占めて居る。それは其  
 地方の風物が豊か、此作者  
 の意に適合する為であらう  
 である。平泉に遊んだ中沢  
 君が私に宛てた紅葉書  
 に、奈良良ふど、は此べもの  
 にふとめ、ふふ失却王のそ  
 せが記されて居た  
 私がかつて知つた中沢君

大正  
 11. 5. 11  
 内交

の作品は明治美術会へ  
出された京都の水画であ  
つた。私がけいどめえ中沢君  
に会つたのも京都の銀  
閣寺の玄關であつた。私  
がけいどめえ中沢君等と宿  
を共にしたのも大正良の三  
山亭であつた。斯くして君  
と上の方とは私の記憶に  
離れがたいものがある。是  
中沢君の飾りなき次女は

公令々出されし浪漫的  
の力作より一容々之集の  
純日本的な小品に示され  
居るのではあるまいか

世は流轉するしゞみ川は  
埋められ高瀬の柳は切  
倒されたる今之廣く重法  
親の諸作に對するやふ  
ふつかしきを以て將來

中沢君の文學座や道

吹堀々 万言あどと見  
る甲の ある可きことと  
疑はる 疑はる

大正辛酉冬日

木下生澁

序

長谷川雪旦が腰に矢を差し草鞋穿て江戸  
市中に云ふは及近郷の名所旧跡の隅まで遍歴して  
生じたその結果は天保二三年に江戸名所圖會と  
世上現れられた。

その後江戸は今日の東京となりさうして明治大正にかけ  
ての変遷は殆ど譬を言ふも無い程です。今に至る江戸時  
代の情調を窺ふ途には雪旦画伯の雪筆筆に  
て依るの外有りません。それでこの後東京が更に幾多  
の変遷があつたとはいへば江戸名所圖會の刊版が其限  
りはこれを永遠として何時も懐しい江戸情調を偲ぶこ  
が出来やうと思ひます。人生には限りがあるが而も執  
術は永久だと云ふのは決して嘘ではありません。  
中澤弘光君は今も金尾文淵堂から新らしい  
日本大観の画帖を出版されました。この巻に  
は君は日本全國の名所旧跡を隈なく遍歴され



て一々宜生せられた。

雪隠時代の江戸か今日の東京と変つて夫が**進歩**か  
将徳化か東も南も**隔世の観**を呈してまゐたが私は弘光  
時代の日本もその後幾十年後百年を経た**晩年**  
後と舊觀を認め得ぬ程の**変遷**を見やうかと思  
へます。

幸に弘光時代の日本には尚ほ幾多の日本の粹と  
その馨香が残つて居るからこれを描て現代の精神  
萃とも愛で尚又後世永くこれを傳へやうと云ふ  
意味から君がより企て**詢時宜**を得たものと  
思ひます。

弘光君が不孝子本領とされる彼の**靈妙**な様  
子は**油繪**創製の外清酒輕快**見人**を醉し  
むる**淡彩**字生画の妙は**全史**に**讚美**するに  
無いこそですが今を**上梓**とつた**日本大觀**に納

むす各地の名所圖繪にまよつては、**一と感歎禁**  
紙にぬき居て、**四**を弄いしは、**五**を弄りません。

近來は**牧画**なる**一藝術**が各**方面**より  
**勃興**する**傾向**が見へます。然しその多くは**獨**  
**創的**の氣分を離れて、**單に**外來の趣味に投じ  
やうと云ふ**淺薄**かほの見へて、**私**甚に其**鳴**の極  
めて嘆いしものとす。而も**弘光**君の**日本大觀**に  
至るとは、**厭**ぶる**エキゾチック**の氣分の毛頭も  
無いもので、**私**として**最**も**歡喜**に堪へぬ處です。  
**恰**も**遠**く**沖**合より吹き来る**潮風**が、**峯**  
の松の梢より梢に傳ふその**自然**の自由さが  
窺はれる。

虚傳と**衝氣**と**模倣**とはあらゆる**藝**  
**術**の敵と信し、**吾**弘光君の**日本**

大觀中には聊々その影が見えん。

奈何見てもその裡には君が獨得の創意もいんによりて現はへれた真の日本の地方色が遂に懐かし描字されて居ます。

如きかやうに現代に於て既にこの画帳が稀布の藝術品で推賞する事案が出来たものとすれば今後幾多の歳月を経ることも更に層々の光輝を放揮するに疑ふ餘地はありませぬ。

終に三月五日の雪旦の月後には筆墨家神田銚子所の名主者藤氏がありませぬ。五に弘光皇帝の北月後にも主者藤氏にも傳へた文圃堂金尾氏のありませぬ。忘れはかりませぬ。

大正十年十二月

克己識す

日本大観の画ハ私の旅行  
スケッチより版画す不適当な  
ものにも文淵堂主人の例の  
気性で富田清二郎西村熊吉  
両氏の苦心を経て木版こいた  
ものである私の繊弱な線や  
通悟な色も両氏の刀と刷とに  
よつて幾分その見られる様となり  
私の陳腐な構圖も日本大観  
とソシ大袈裟な名前を普友  
せらるるを空手光栄である  
現代の版画界ハ日々清新な  
創作が出来らうと思へる古い

錦繡の複製衣も亦盛である  
木版画復活の時代は私の  
様お中途半端な版画も  
明治大正の面影を傳へ得  
ればそれ満足である津々  
浦々の屏風や襖は桃山御陵  
奈良の大佛善光寺や日光  
などの木版画が普及せらる  
日を近く私を夢見てある

大正十一年一月一日

東京郊外戸塚寓居にて

弘光志郎夫

繪師乃其

あがき

し

糸の

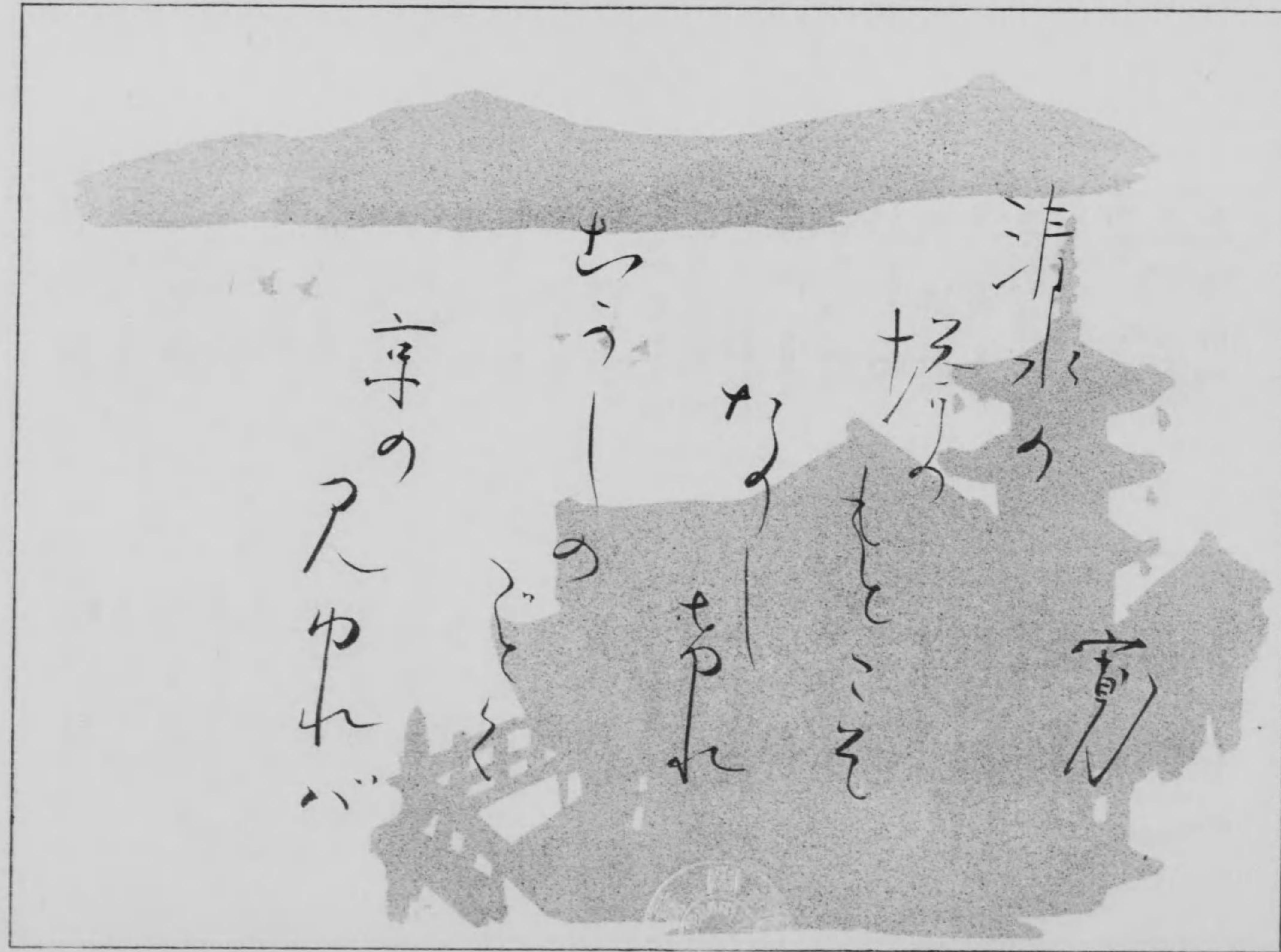
山

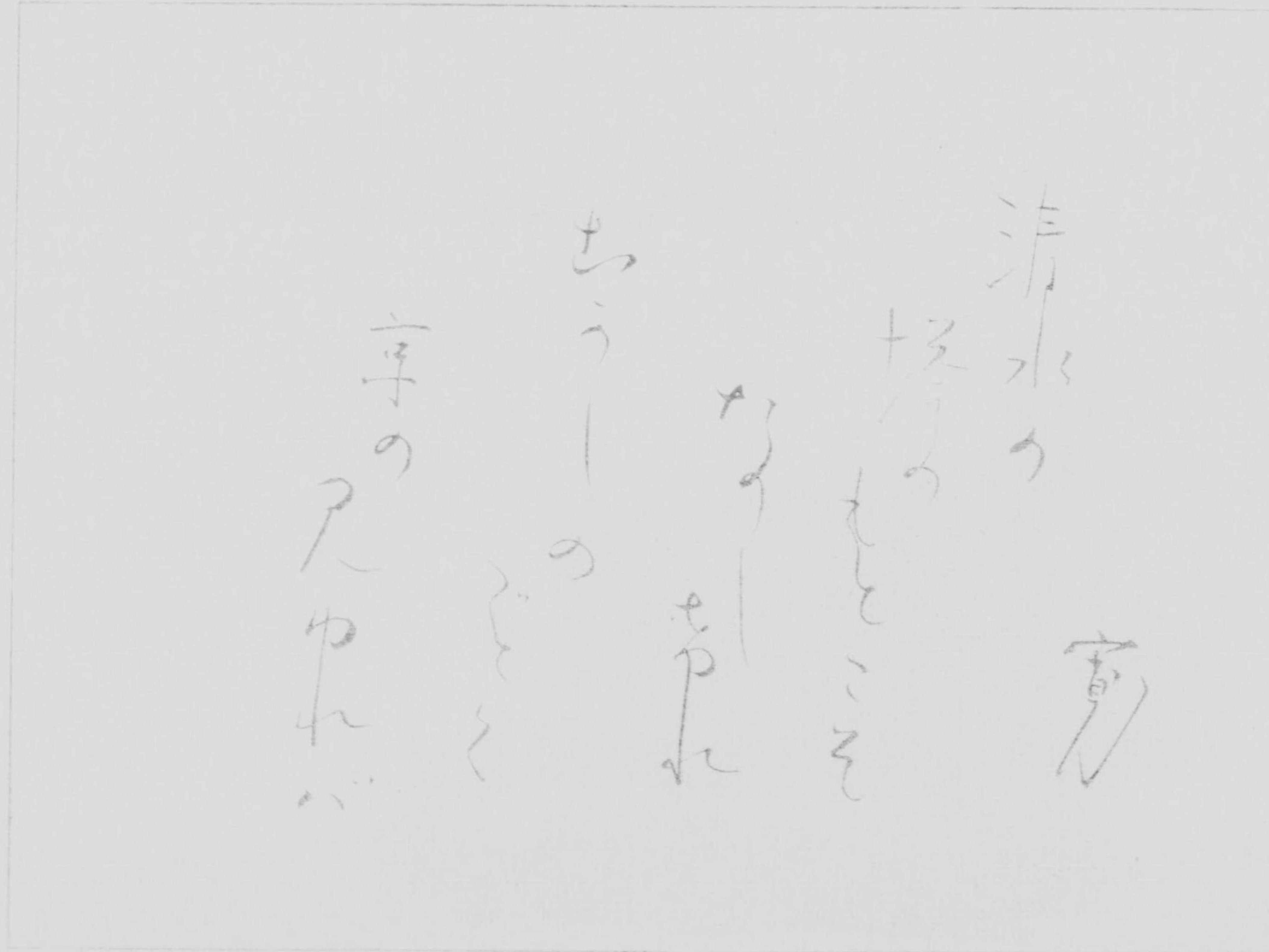
の

泥

描け

る









京都御所  
三條大橋  
嵐山  
東本願寺  
高津舞臺  
天王寺  
新戒橋  
猿澤地  
春日社頭  
南内堂  
東大寺塔中  
奈良郊外一  
奈良郊外三  
法起寺  
法隆寺  
神武御陵  
吉野川  
初瀬廻廊  
和歌浦三紀三寺  
須廣寺  
官島  
甲川中湖  
名古屋城  
草津三山  
国技館

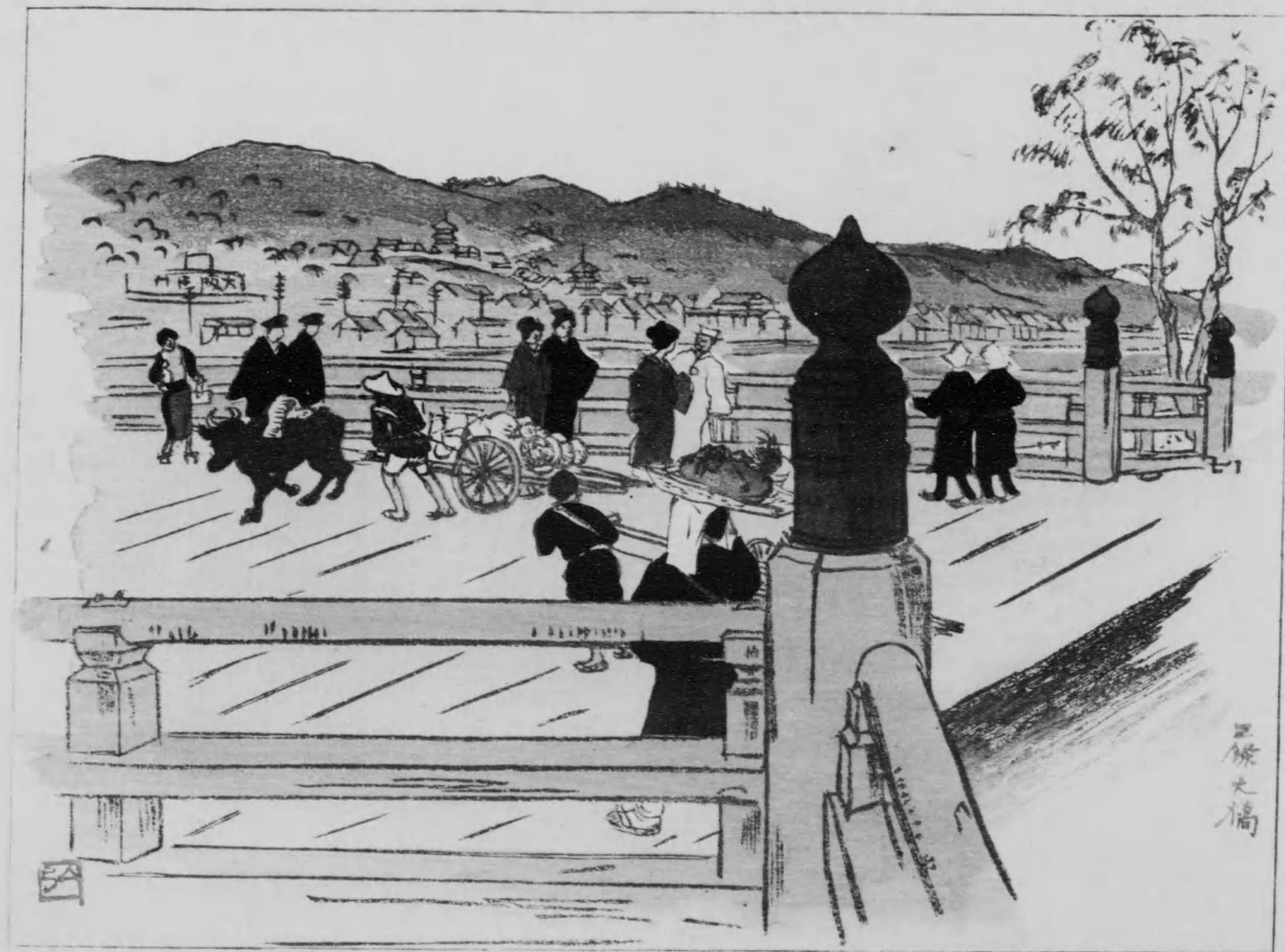
祇園  
清水園  
高水園  
文樂  
宗右衛門町  
道頓堀  
宗右衛門院  
奈良公園  
今舞樂  
大佛  
春日高内  
奈良郊外三  
唐招提寺  
夢殿  
龍田  
吉野六田渡  
吉野  
壺阪口  
須廣村南極堂  
尾道平光寺  
天之橋立  
東海道知立  
草津附近  
房総国境  
碓氷輕井沢

京都御所  
 三條大橋  
 嵐山  
 東本願寺  
 高津野台  
 天王寺  
 新我橋  
 穰澤池  
 春日社頭  
 南田堂  
 東大寺塔中  
 奈良郊外一  
 奈良郊外三  
 法起寺  
 法隆寺  
 神武御陵  
 吉野川  
 初瀬廻廊  
 和歌浦三紀三寺  
 須賀寺  
 官島  
 甲川市湖  
 名古座城  
 草津三山  
 岡技館

祇園  
 清水  
 高碓  
 文樂  
 宗右門町  
 道頭塔  
 宇治平等院  
 奈良公園  
 今舞樂  
 大佛  
 春日高内  
 奈良郊外二  
 唐招提寺  
 夢殿  
 龍田  
 吉野大田渡  
 吉野  
 壺阪口  
 須賀村南無堂  
 尾道本光寺  
 天橋立  
 東海道知立  
 草津町道  
 房統園境  
 磯水軒井次







三條大橋



清水寺

國





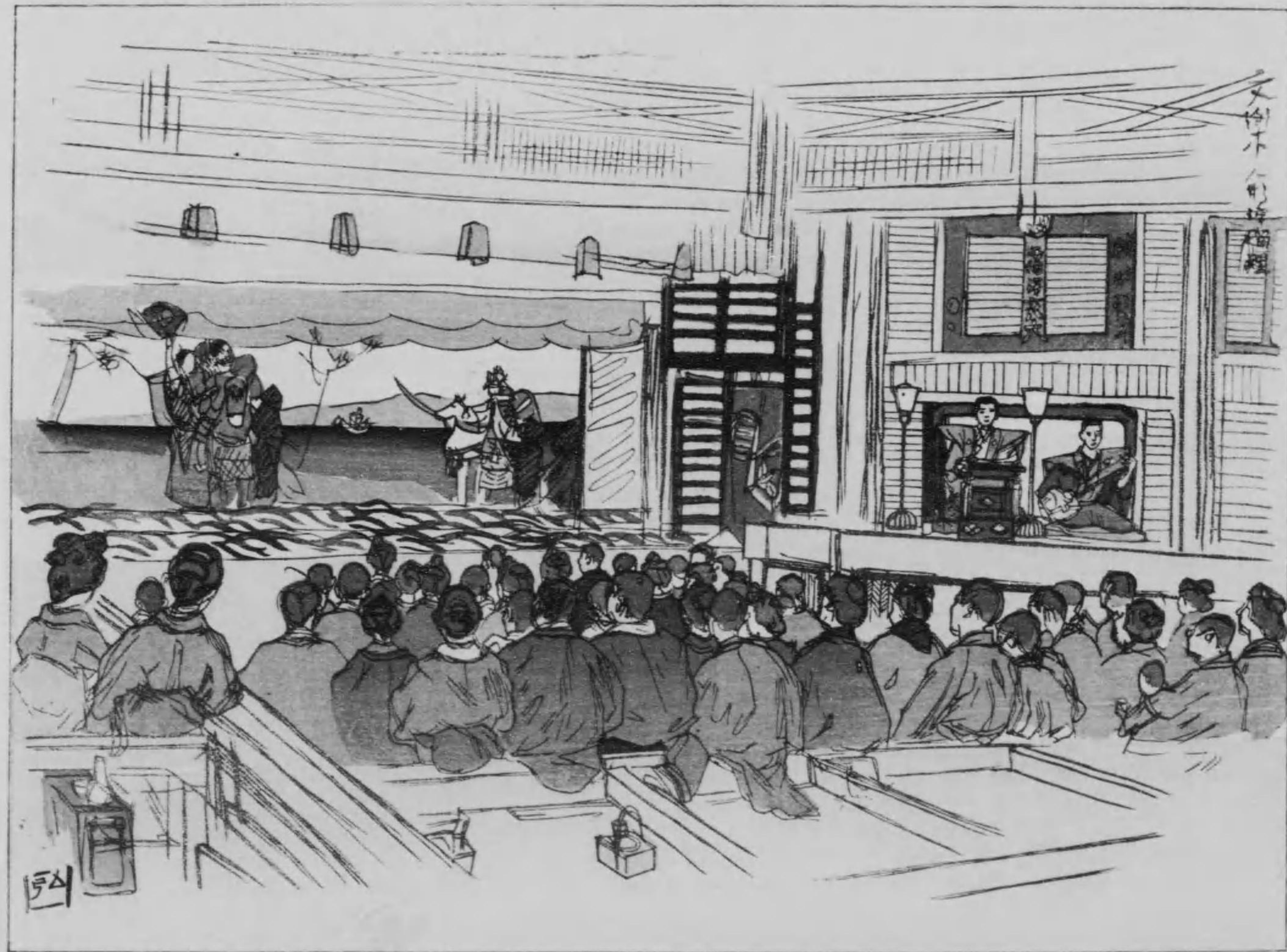
天下  
地  
持  
果  
丁

△

1877







露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影





宇石正門町茶屋

EA

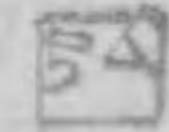


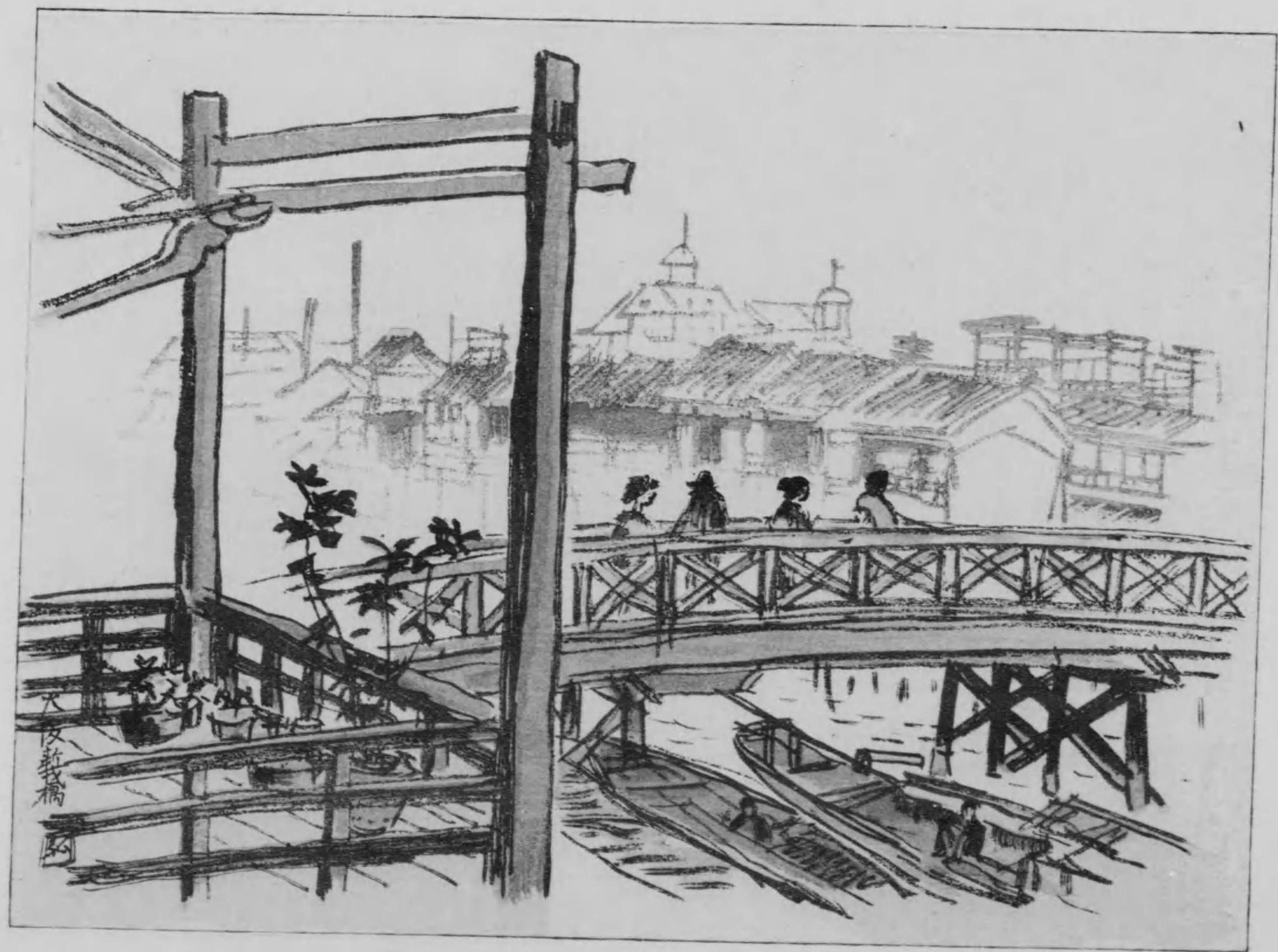
天  
平  
寺  
塔





道頓堀



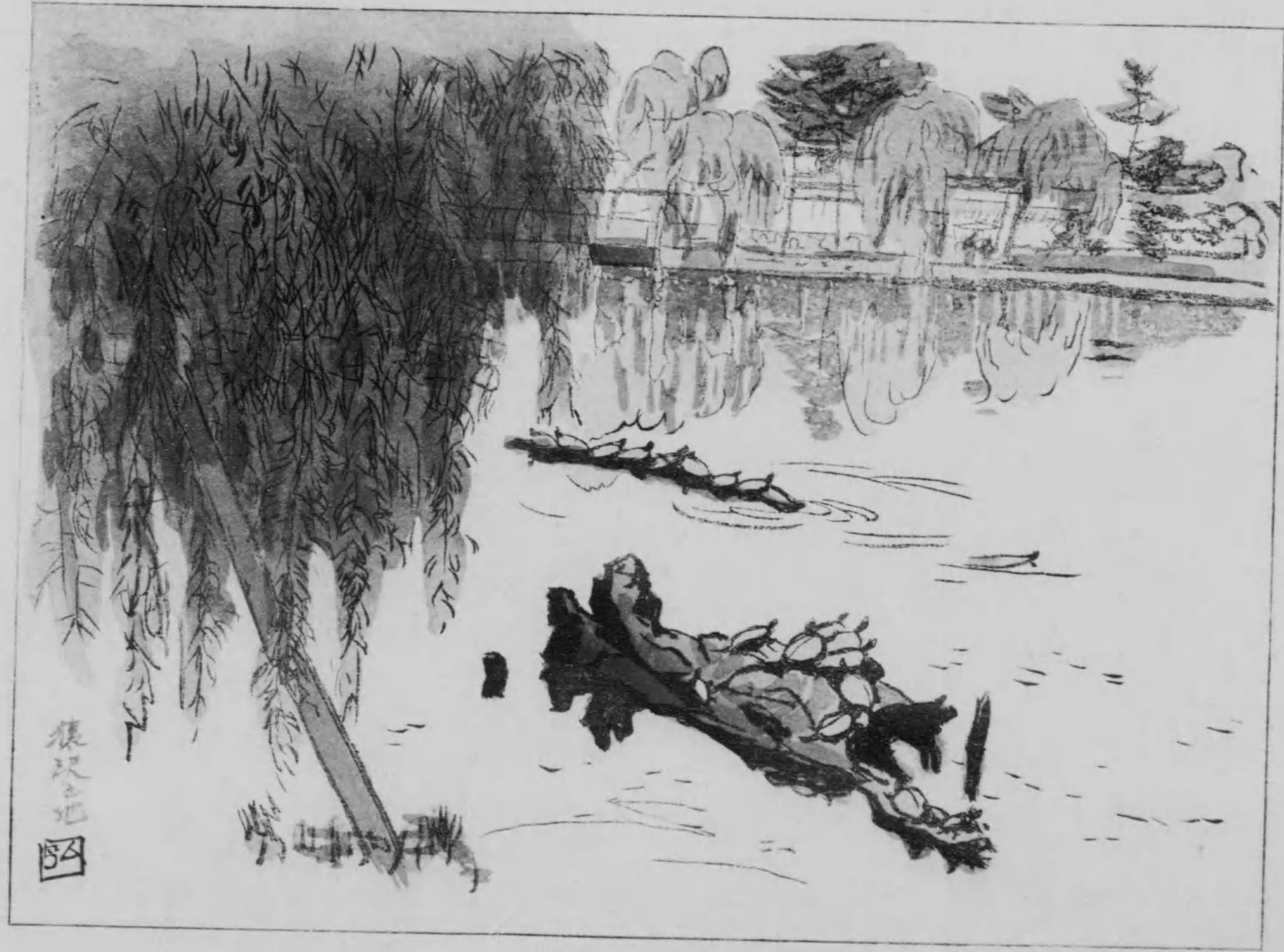


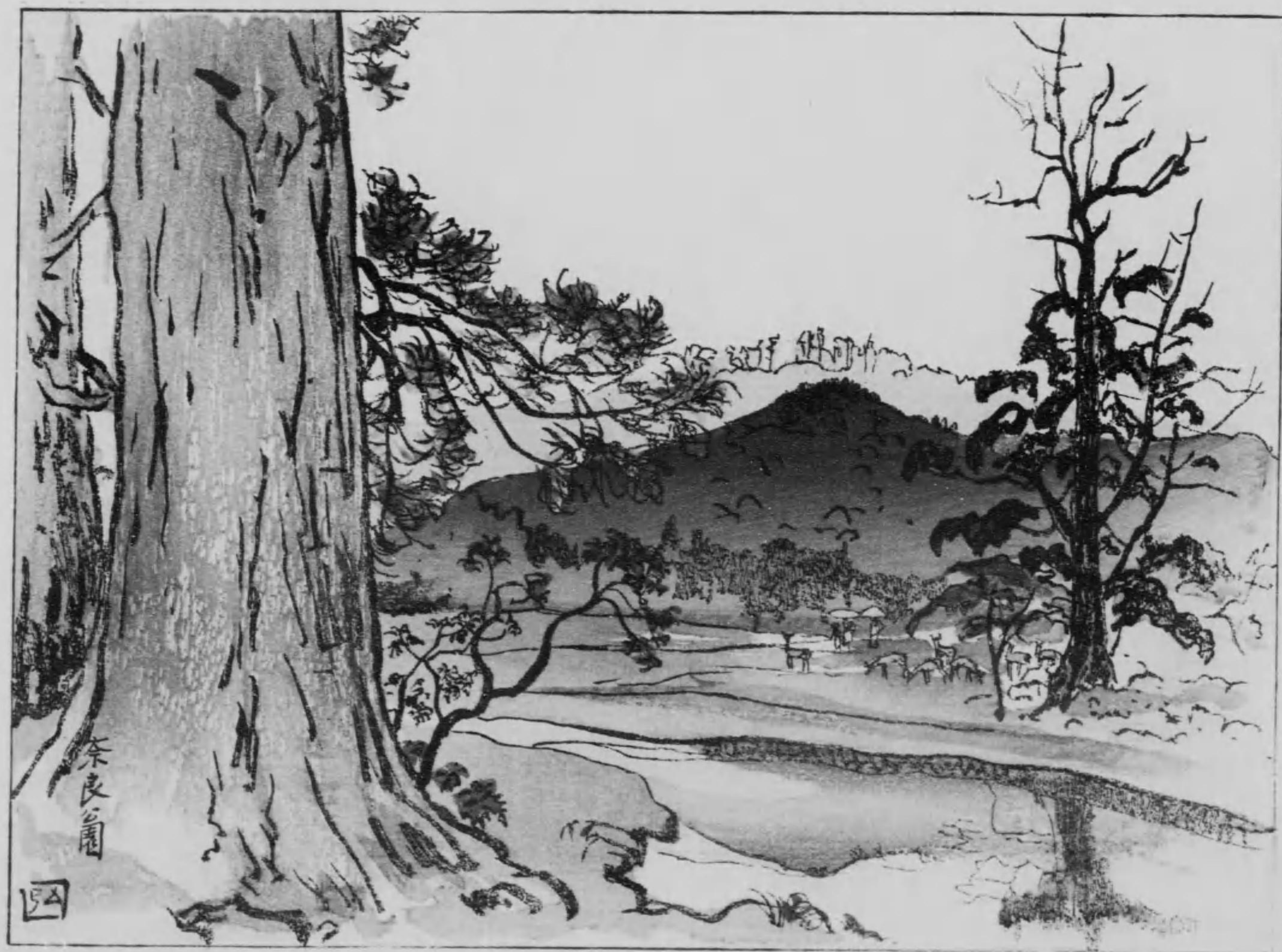
天  
下  
義  
橋



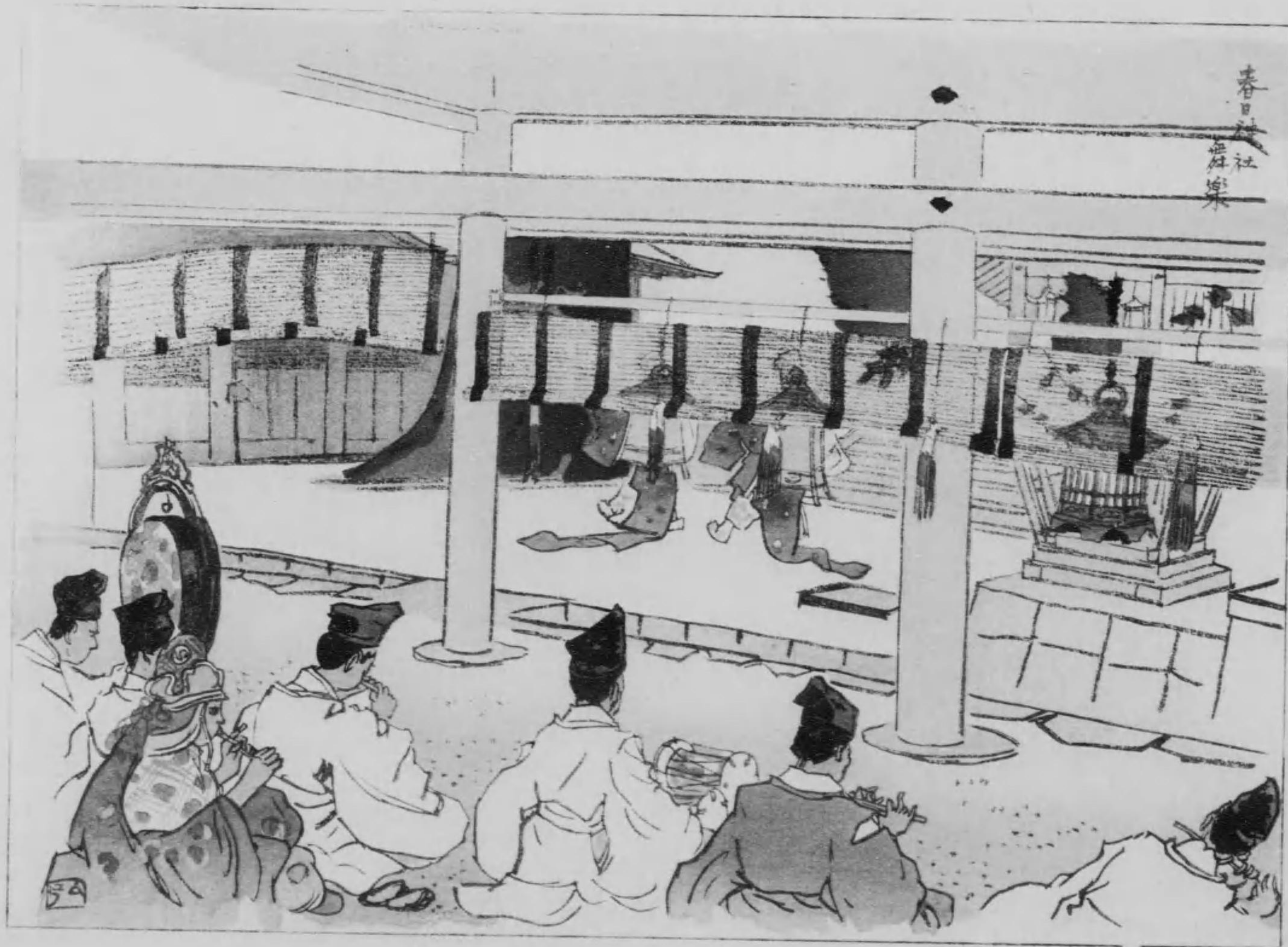
皇治平寧院





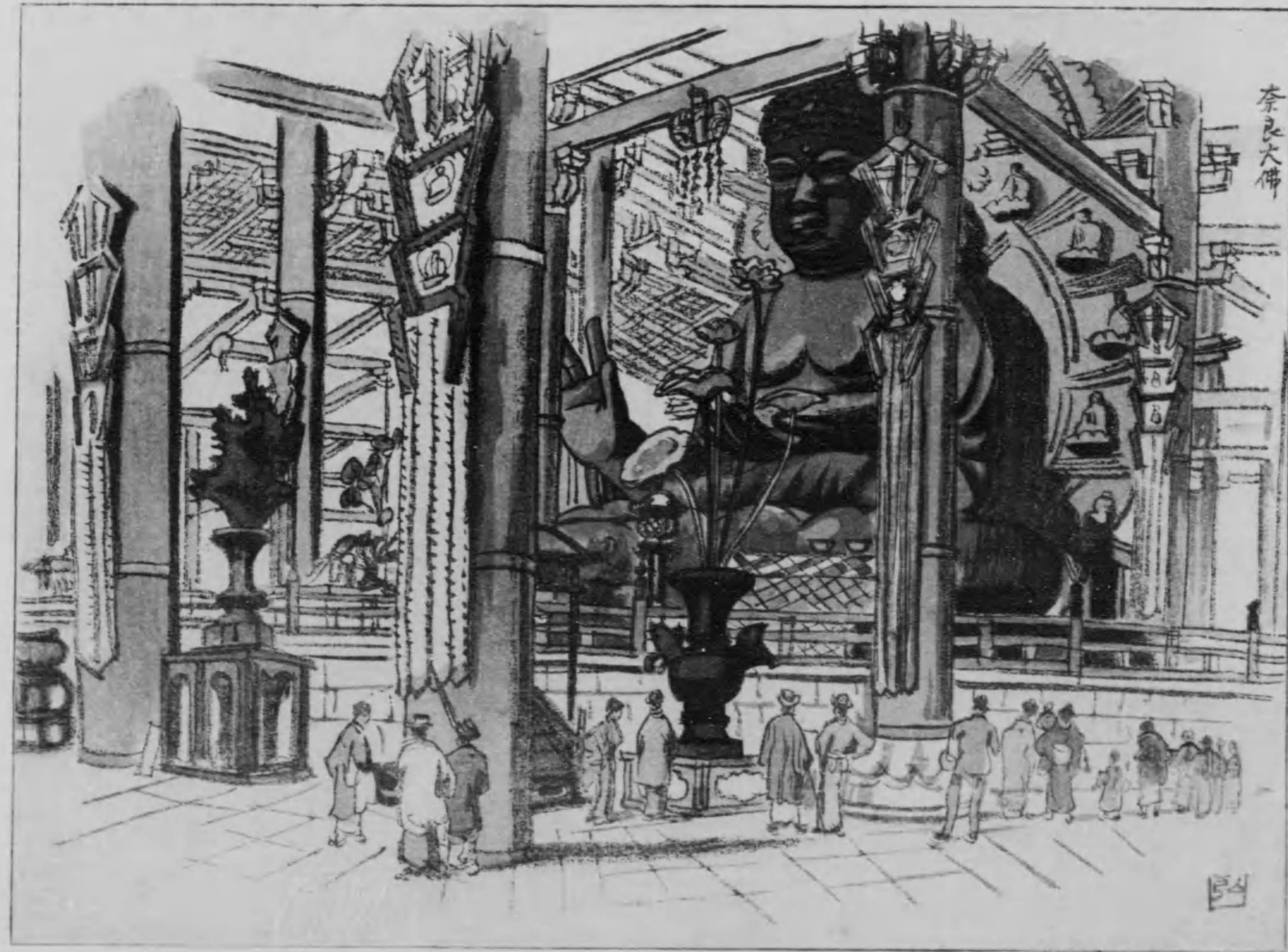






春日社  
舞樂





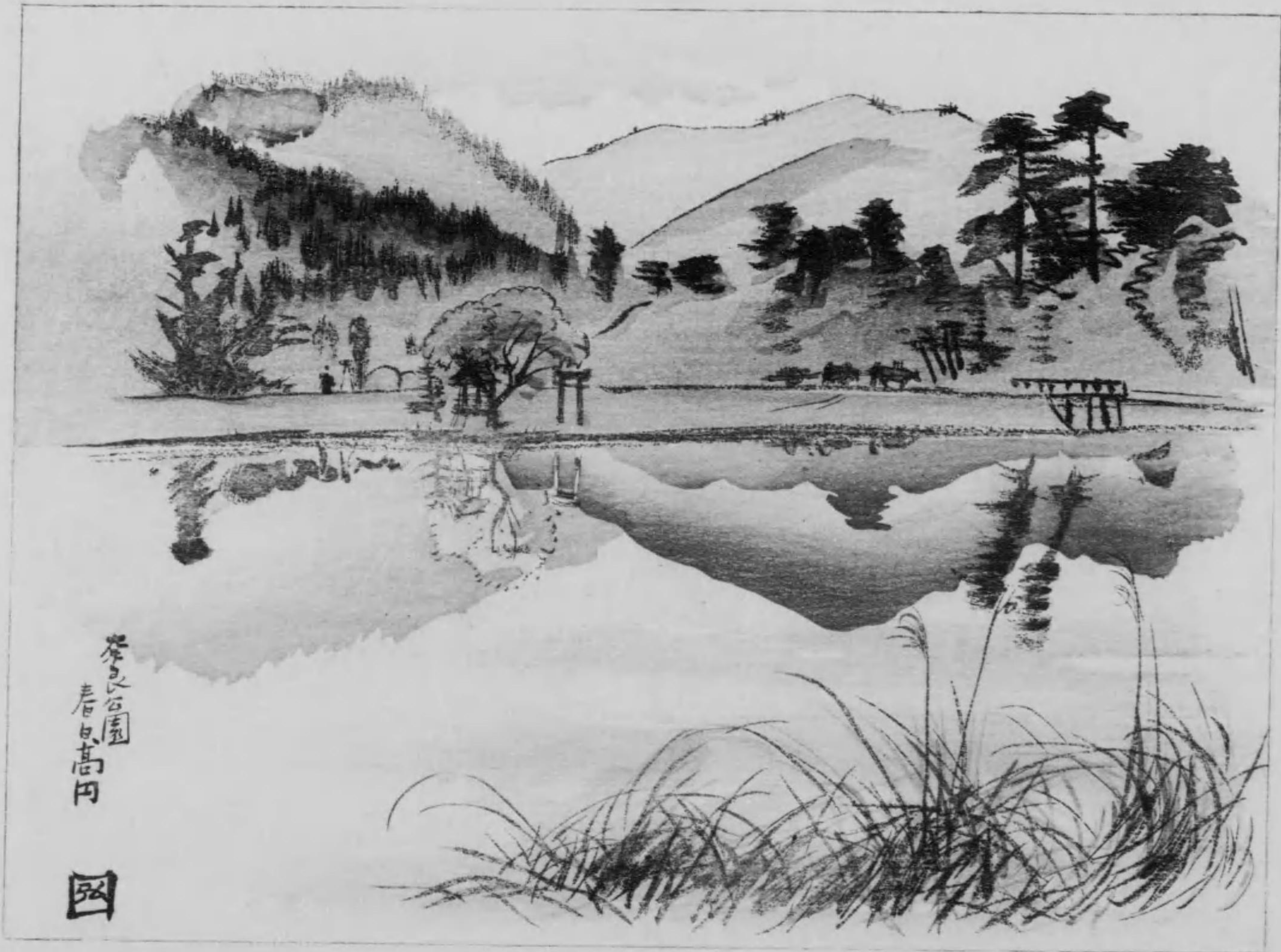
奈良大佛

印



長  
塔  
中  
印



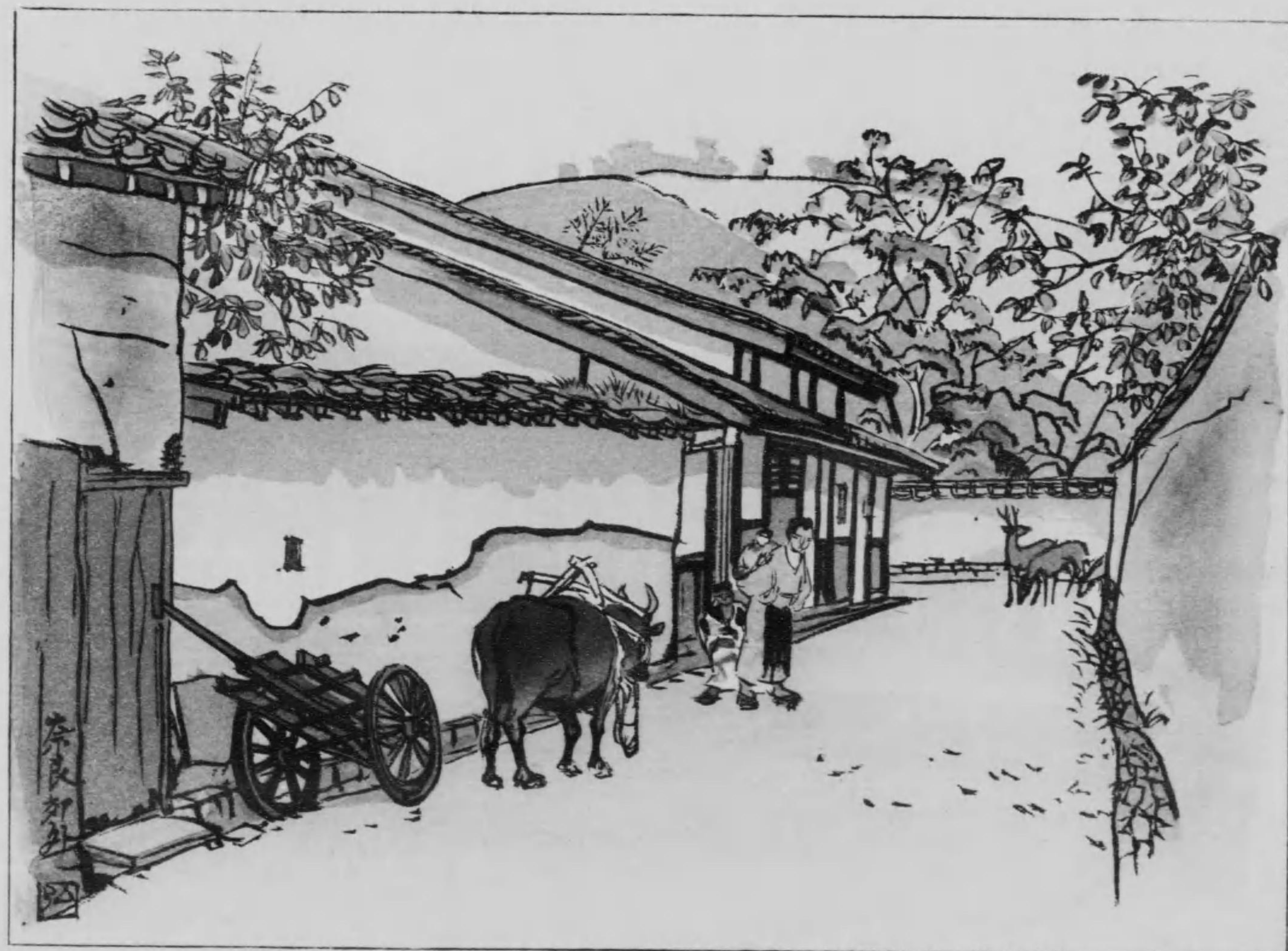


春  
高  
岡

岡







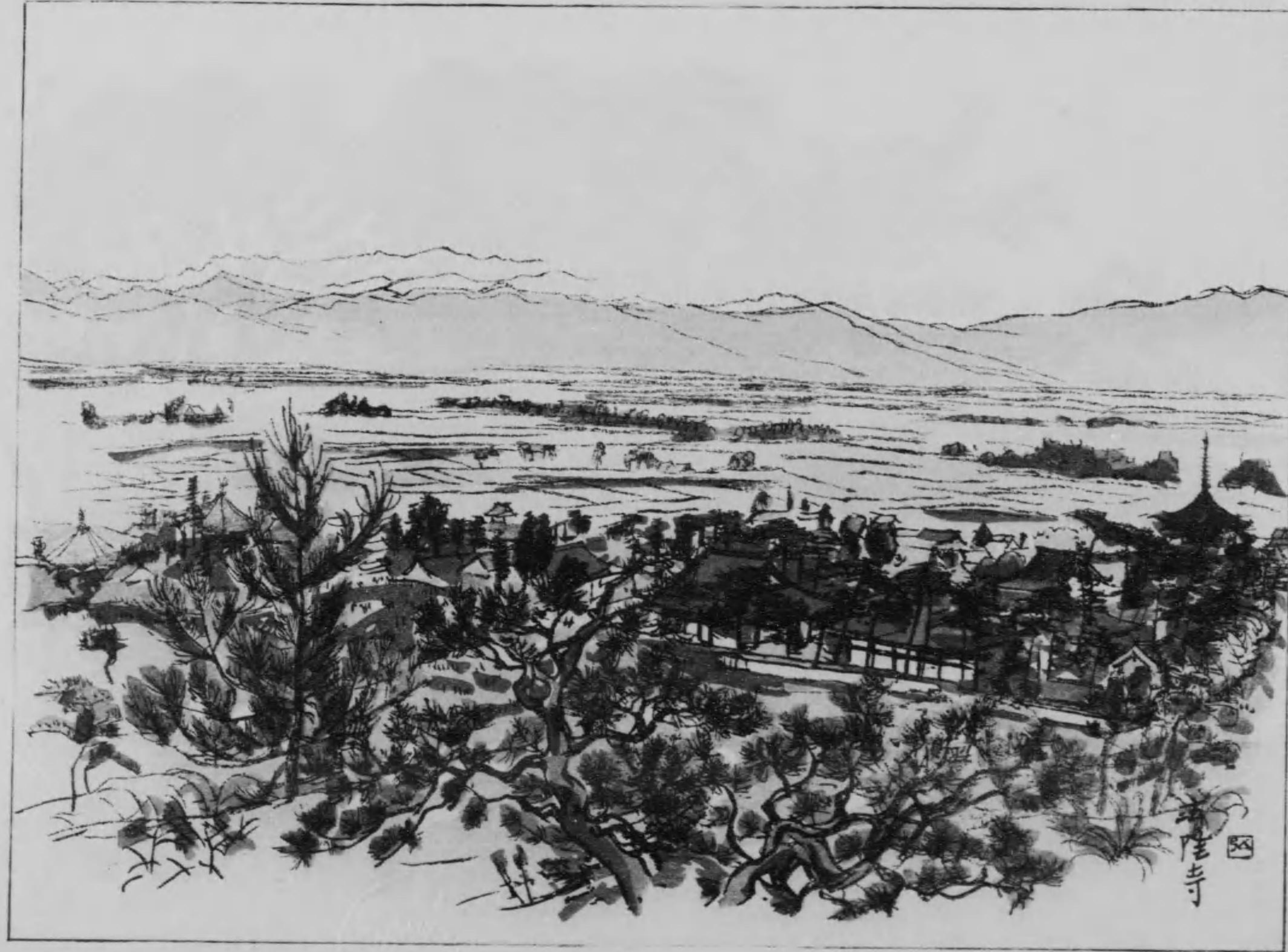




法起寺



隆慶殿  
圖



陸寺  
印





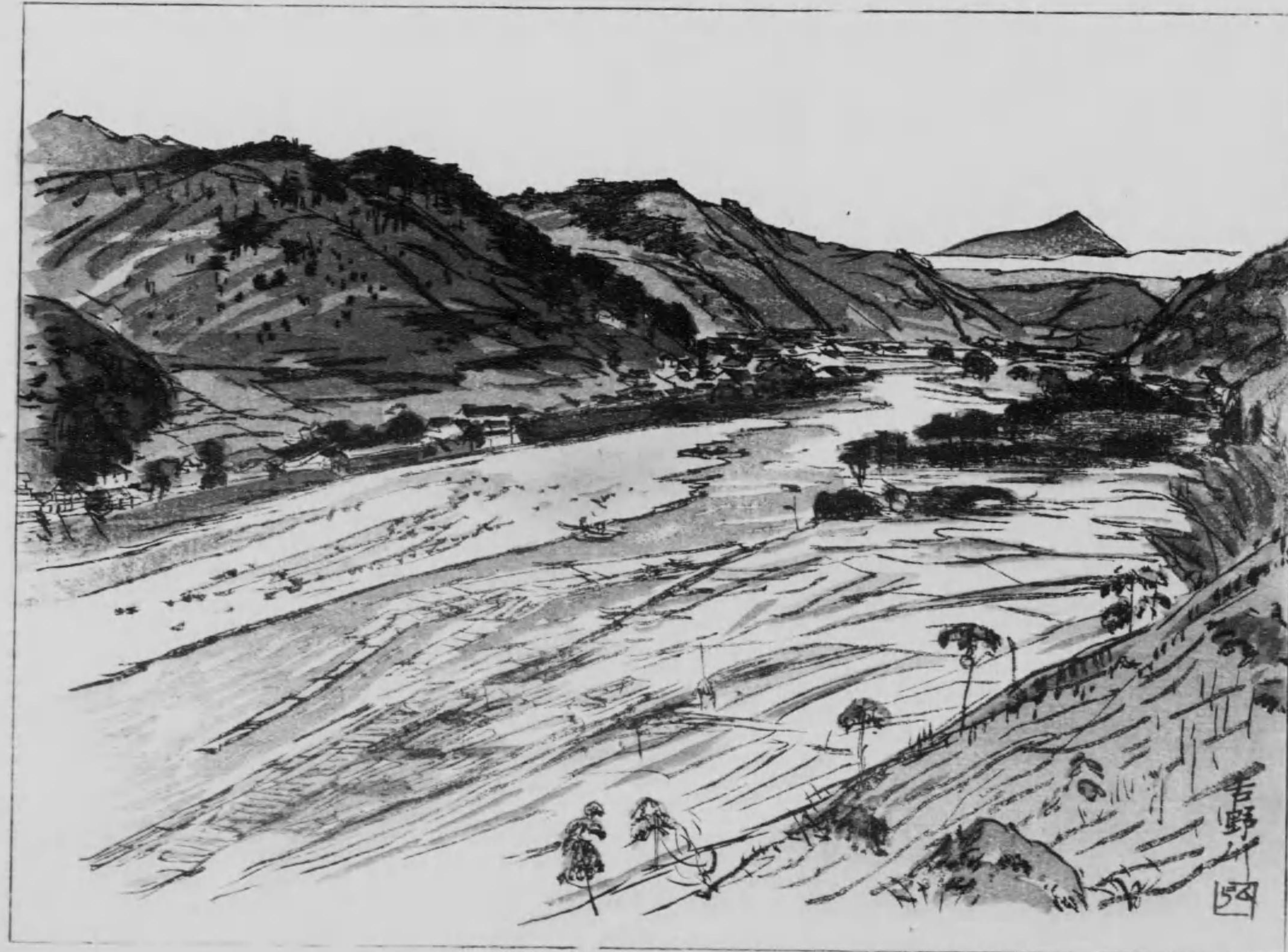
神武御陵

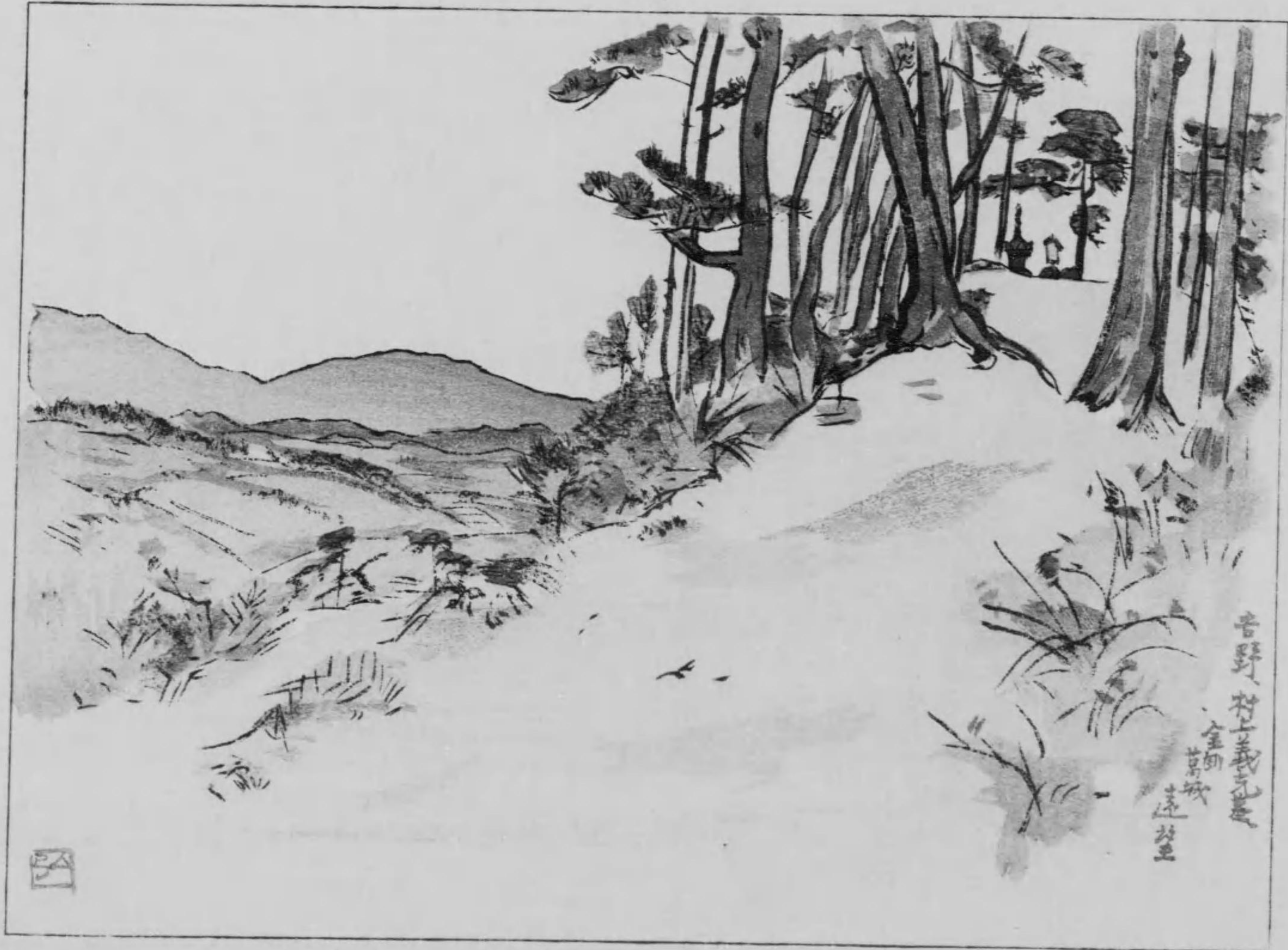


四



吉野  
復興  
圖

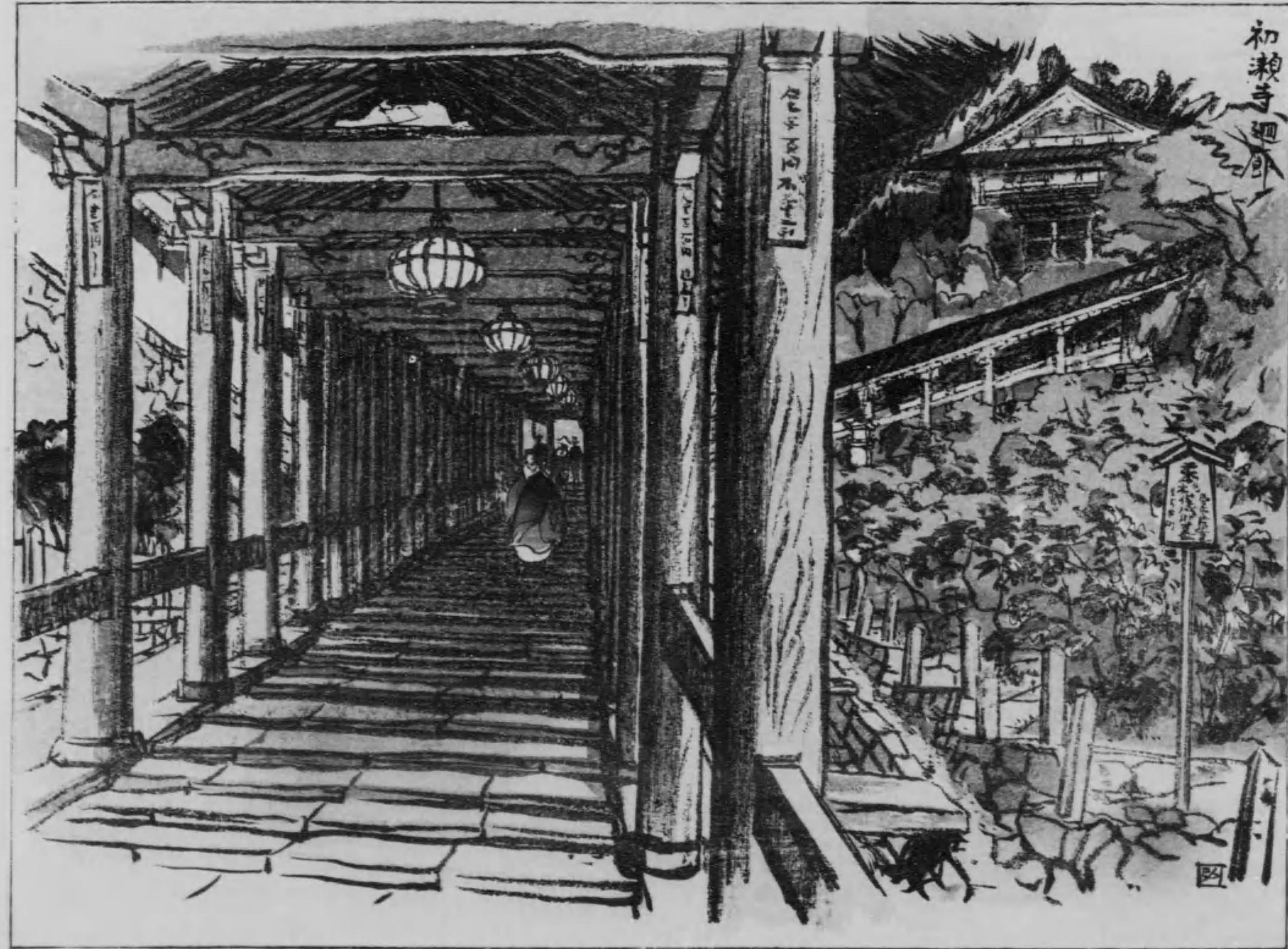




音野村十義元  
全明  
草城  
遠松



音野村十義元



初瀬寺廻廊

石段四百八十段

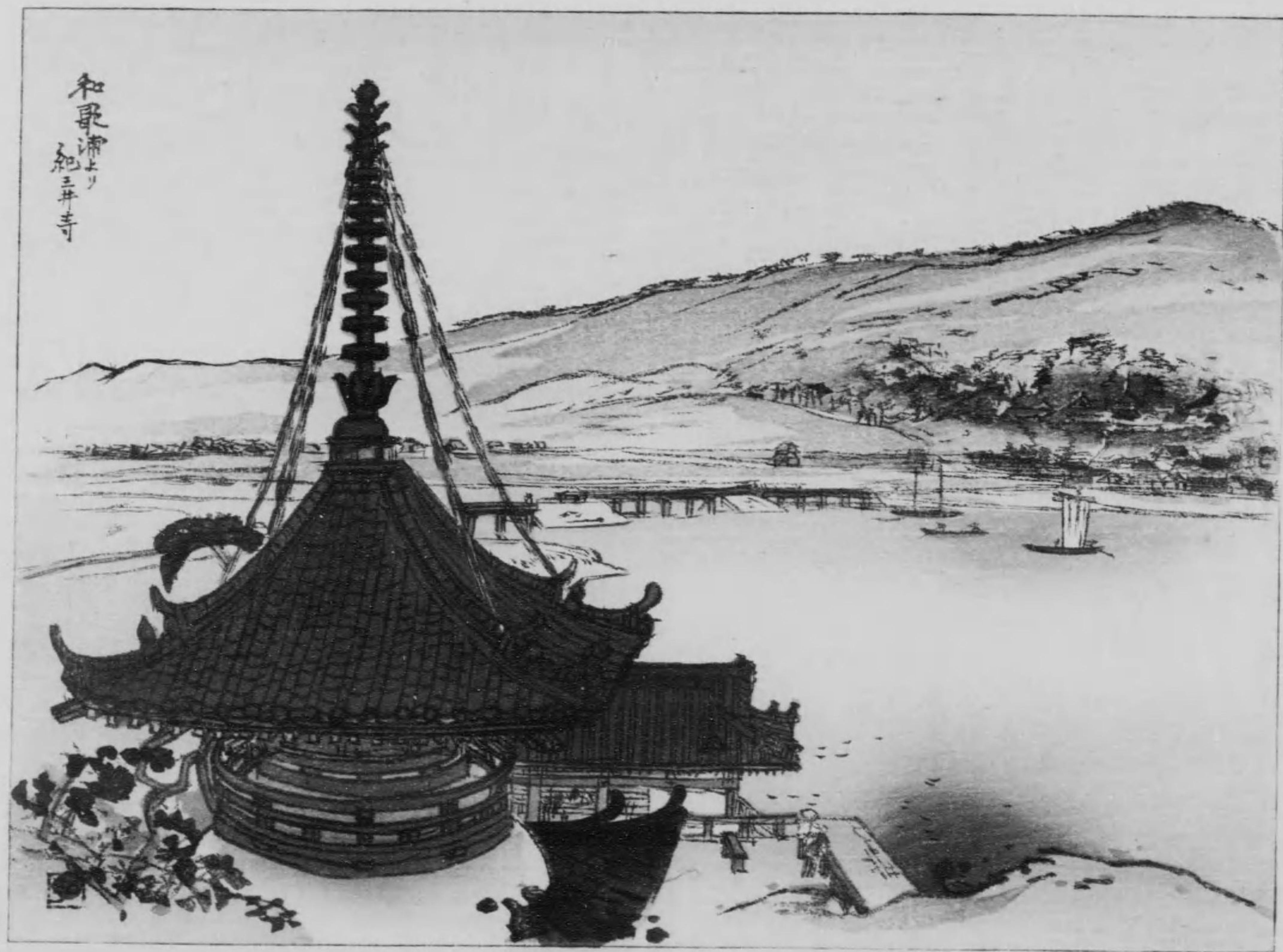
四

初瀬寺廻廊



壺坂川

圖



和歌浦より  
紀三井寺





須  
村  
松  
堂

國



春  
下  
山

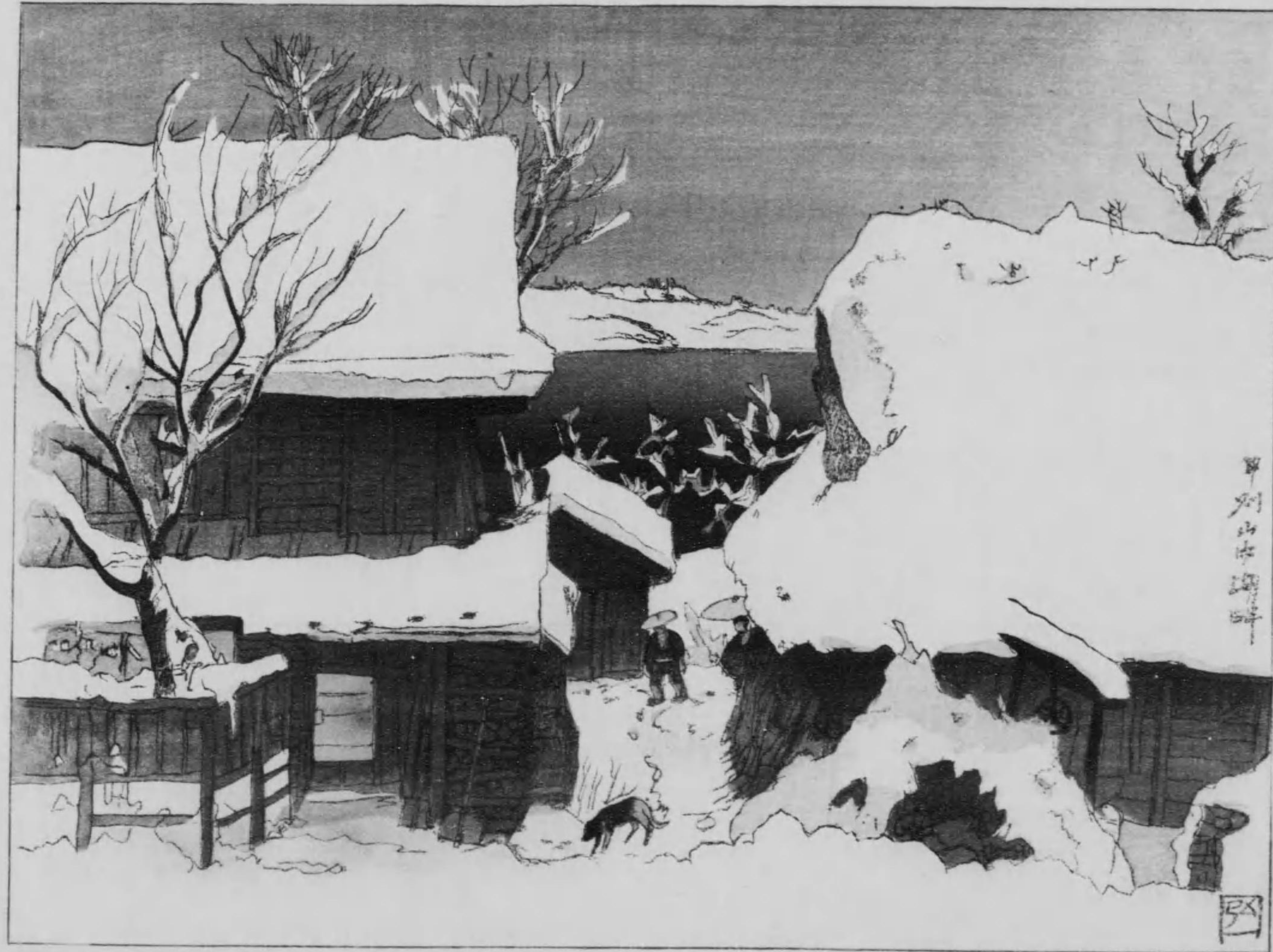








丹後天橋立  
印



甲州山中雪景





知立



露光量違いの為重複撮影

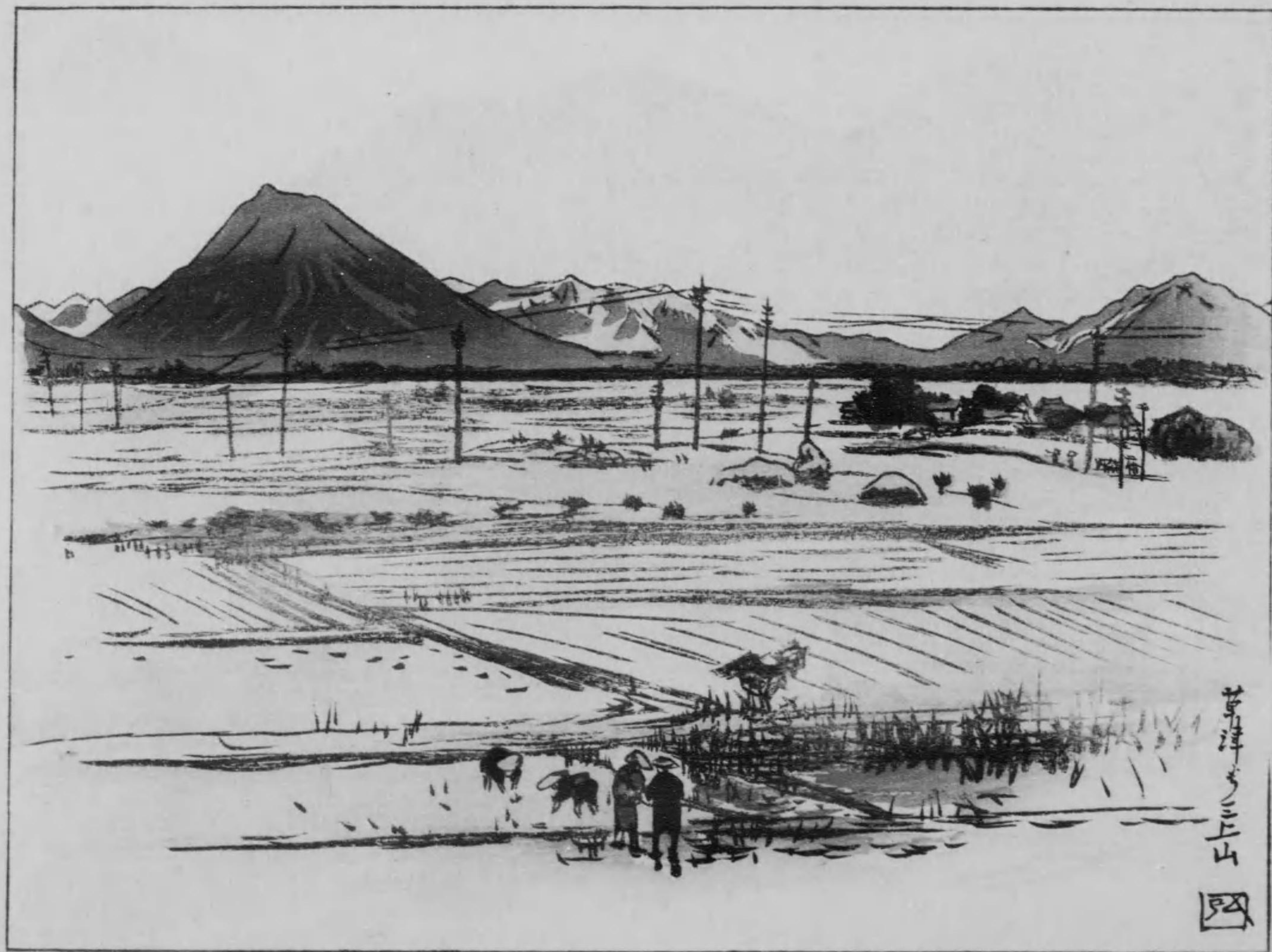




露光量違いの為重複撮影

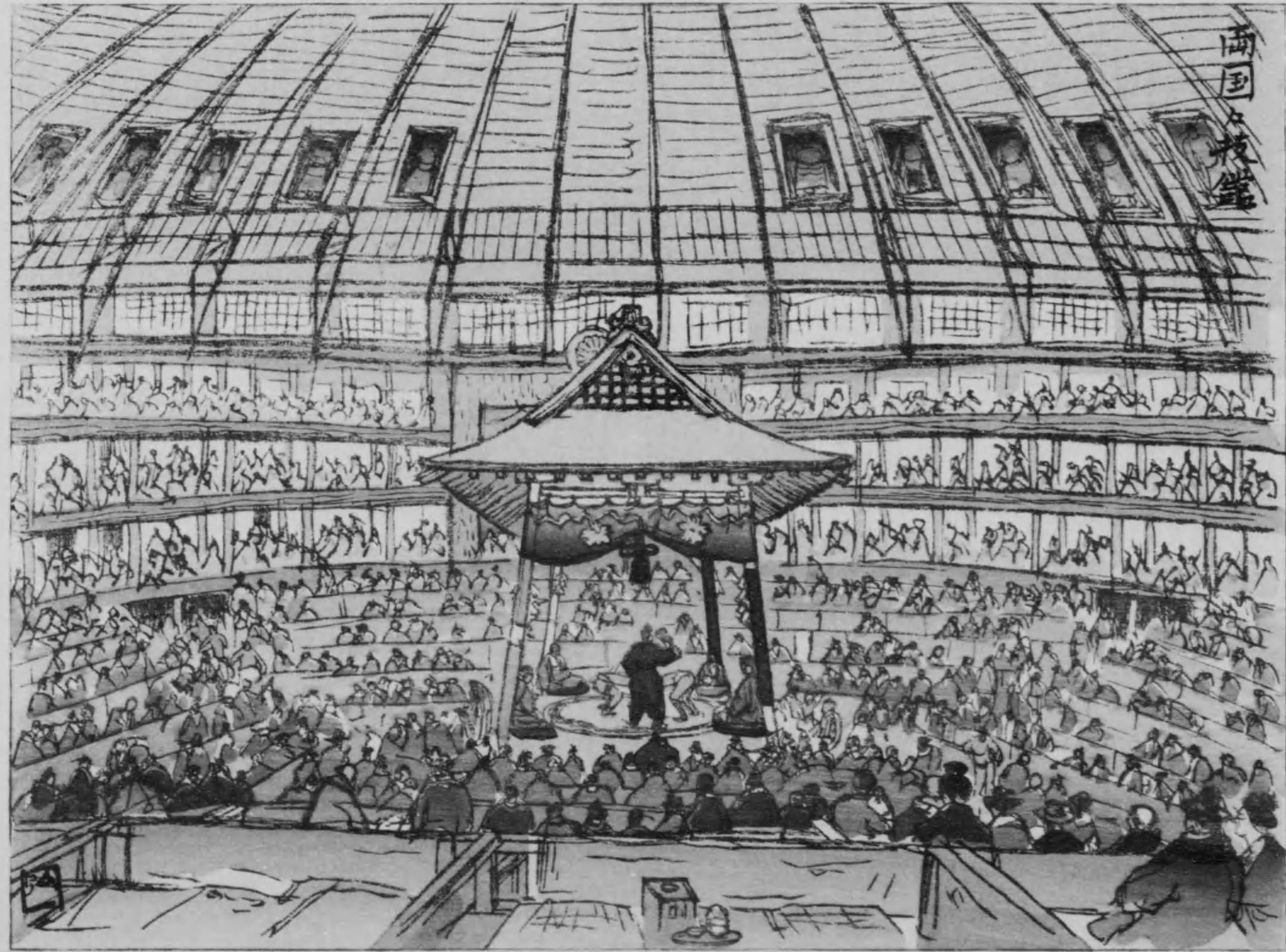


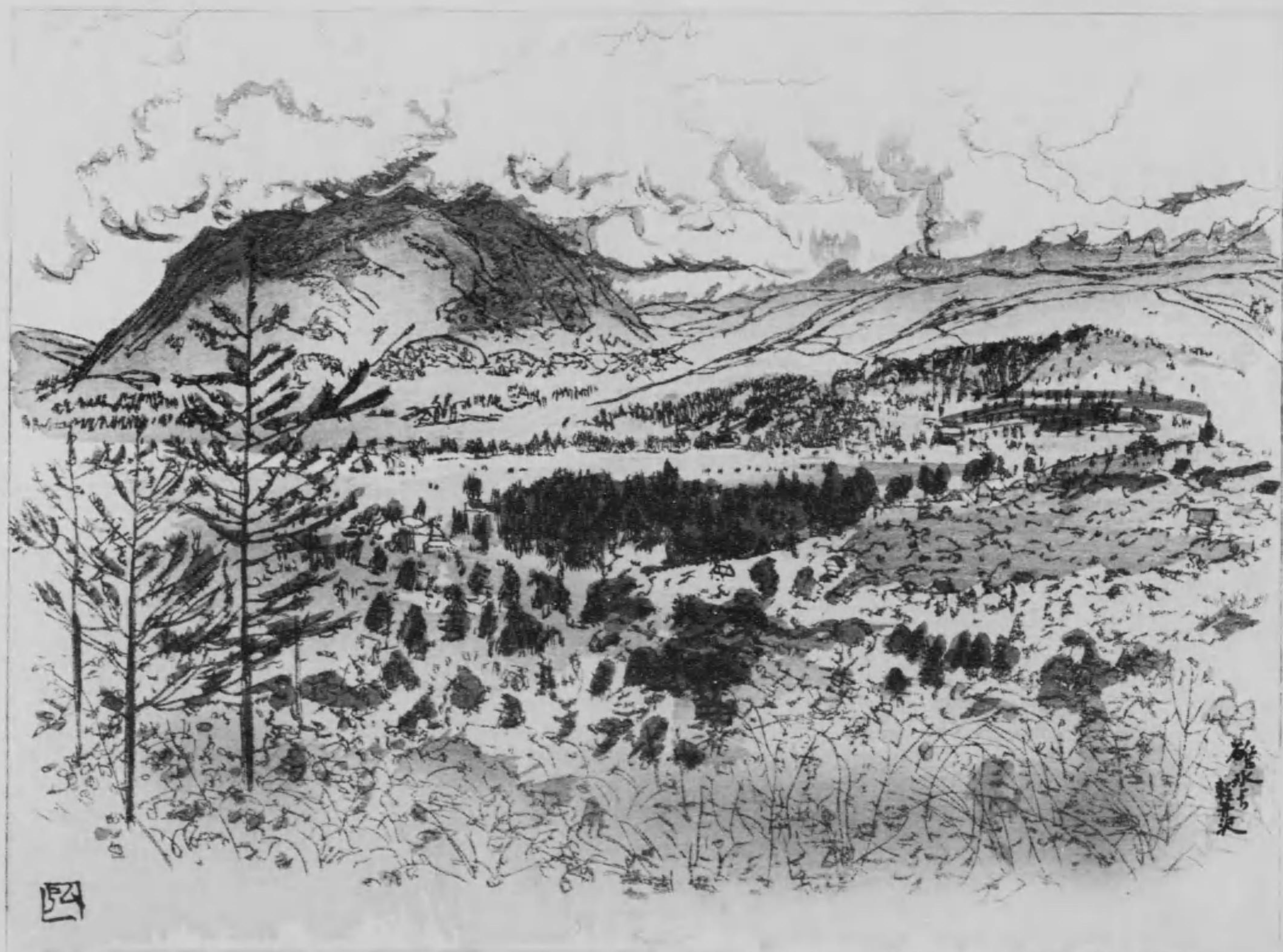




草津三上山  
圖







大正十一年一月五日印刷  
大正十一年一月十日發行

日本大觀  
金拾五圓

著作權  
所有

著者	中澤弘光
編輯者	金尾種次郎
彫刻者	岡田清次郎
印刷者	四村熊吉

發兌元

東京市日本橋區大傳馬鹽町一番地  
金尾文淵堂

持長電話神田四〇九一番  
攝電電話神田二〇七九番  
替東京三八一七番

終

